

日本体育大学 vs 流通経済大学

4月7日(日)
13:50K.O.
BMWス

1部復帰初年度ながら、昨年は堂々とした戦いぶりだった日体大。一時は優勝争いに食い込むほどの健闘だったが、最後は5位とインカレ出場に一歩届かなかった。

何といても昨年の特徴は、リーグ最少失点(22試合で26失点)の守備面の強さだった。半面、攻撃サッカーを目指しながらも決めるべきところで決められなかったり、試合を優位に進められないことも多く、得点数はリーグ2番目に少ない31得点。攻撃面でいかに点を取っていくかが大きなポイントだろう。

今年から倉又寿雄氏が新監督に就任するが、昨年同様「クリエイティブで、アグレッシブな攻撃的サッカー」をモットーに、勝ちきれぬサッカーで観客に感動を与えるようなプレーをチームとして体現できるように日々取り組んでいる。常に全力でゴールに向かっていく、北脇健慈(4年)のプレーに注目したい。

選手層の厚さから毎年優勝候補に挙げられる流経大だが、ここ数年は低迷。昨年も残留争いの末、8位だった。

きれいなサッカーを目指すあまり、ハードワークを忘れがちになったのが原因か。その反省を生かし、年末年始も休み返上でトレーニングを積んだ。春先の練習試合を見る限り、その成果がしっかりと実となっている。

「守備をだいぶやってきた。手応えをつかんでいる」と、中野雄二監督も自信を深めている。

攻撃面が特徴とされてきたチームだが、まず守備を徹底することで攻撃面にも好影響が出ている。これをリーグ戦でも表現できれば、一気に優勝候補の筆頭に躍り出る可能性もあるだろう。

昨年の経験を積んだ3年生が中心メンバーとなって引っ張り、チーム状態は非常にいい。あとは勝ちきりだけの粘り強さを備えているかどうかだ。

昨年の対戦：前期/日体大2-1流経大、後期/日体大0-2流経大

日体大			流経大		
5. 中西	15. 阿部		23. 森保	2. 田向	
4. 菊地			10. 黒田	3. 鈴木	
	10. 稲垣			7. 中山	
1. 伊藤	9. 田中	11. 北脇			22. 眞辺
	6. 石井			6. 富田	
3. 広瀬			12. 久保	5. 川崎	
2. 宮内	7. 梅村		4. 中美	16. 湯澤	

筑波大学 vs 国士舘大学

4月7日(日)
13:50K.O.
川口

全日本大学選抜に谷口彰悟(4年)、上村岬(4年)、赤崎秀平(4年)などが選ばれているように、選手個々の能力が高いのは間違いない筑波大。しかし、ゲームコントロールと守備面でそれぞれ弱さを露呈し、昨年はインカレ出場権すら逃す6位に終わってしまった。

昨年途中に就任した中山雅雄監督は引き続き指揮を執るが、スタッフの体制は今年から大きく変わった。そして、結果と内容の両方にこだわるために、これまでのスタイルからさらにレベルアップしたサッカーを標榜。すべてのタイトル奪取を目標にトレーニングに取り組んでいる。

ただ、ややケガ人が多いのが気がかりだ。開幕1週間前に行ったジェフ千葉との練習試合は0-3と完敗。攻められる展開が多く、やや守備面で不安が残った。開幕でどのようなパフォーマンスを見せるのか。

選手個々の能力は高いが、チーム全体のパフォーマンスとなるとの足りない国士大。昨年も7位と、悔いの残るシーズンになってしまった。

1年間を通して安定した戦いができなかったのが原因だけに、春の合宿では技術のみならず精神的な成長を目標に、反省点、課題を克服するために厳しい練習を積ん

できた。その成果を初戦から出すことができるかどうかポイント。

国士大らしいハードワークするプレーができれば、選手個々の技術はしっかりとしているだけに、ゲームを優位に進めることができるはず。あとは、いかにチャンスをもものにできるかにかかっているだろう。中心的選手が入れ替わっただけに、チームとして形になるのに少し時間がかかる可能性はあるが、我慢してやり続けることが大切だろう。

昨年の対戦：前期/筑波大1-0国士大、後期/筑波大3-2国士大

筑波大			国士大		
12. 三丸	8. 上村		9. 坂谷	2. 石川	
5. 車屋				3. 吉田	
	7. 葺本			7. 橋本	
1. 神倉	10. 玉城	9. 赤崎	10. 新村	8. 福田	1. 小澤
	3. 谷口			4. 池ヶ谷	
2. 田代				5. 中井	
6. 片岡	13. 曾山		14. 進藤	6. 嶺岸	

※今回の布陣は、各チームが提出し、パンフレットに掲載したものを転載

JR東日本カップ 2013 第87回関東大学サッカーリーグ戦



OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.25-NO.1 Division1



編集：加茂郁実 印刷：関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

「昨年引き続き混戦の激戦必至！」

4月6日、『JR東日本カップ 2013 第87回関東大学サッカーリーグ戦』が開幕。夏場にロシア・カザンでユニバーシアードが開催されるため、今年は前半戦9試合、後半戦13試合の変則日程で大会が行われる。

注目は何といても2連覇中の専大だろう。今年も戦力は充実しているが、全日本大学選抜の活動などで、選手がそろっての練習がやや少なかったのが気がかりだ。

対抗は2年連続で準優勝の明大。ここ2年、前期の出遅れがあと一歩優勝に届かなかった原因だけに、前期リーグでどれだけ粘り強い戦いができるかがポイントだ。

昨年度のインカレを制した早大だが、4年生が卒業し、ややパワーダウンか。しかし、チーム戦術はしっかりとしているだけに、一丸となって12年ぶりの優勝を目指す。

昨年4位の中大。得点力不足が響いて優勝に一歩届かなかったが、もともと力のあるチームだけに今年も注目だ。

昨年1部に昇格し、5位と健闘した日体大。今年は鈴木政一監督が

U-18日本代表の監督に就任したため、新たにスタッフを招集した。どういったサッカーを見せるのか注目だ。

昨年6位と、思うような結果を残せなかったのは筑波大。特に、シーズン途中で風間八宏監督が川崎フロンターレの監督に就任し、そこからなかなか本領を発揮することができなかった。攻守がかみ合わず、後期リーグは失点が多かっただけに、守備の安定がポイントだ。

期待されながら結果を残せなかったのが国士大と流経大。共にいいゲームはするものの継続できず、淡泊なゲームが多かったといわざるを得ない。シーズン前に厳しいトレーニングを積んできた成果を見せたいところ。特に、流経大の調整は順調な様子だけに、4度目の優勝を目指したいところだ。両チームの逆襲は？

慶大と順大だが、昨年は残留争いに必死の1年となってしまった。ギリギリのところまで何とか残ったが、慶大は失点が多く、順大は得点力不足だった。課題が快勝できれば面白い存在。

1部昇格組は東洋大と桐蔭横浜大。両チームともに圧倒的な強さを見せて1部に昇格してきただけに、上位争いをする力を持っている。

JR東日本カップ 2013 [第87回] 関東大学サッカーリーグ戦 日程

節	日付	会場	対戦	時間	
1	4月6日(土)	味フィ西	明大 vs 東洋大	①12:00	
			専大 vs 桐蔭大	②14:20	
	4月7日(日)	川口	中大 vs 慶大	①11:30	
			早大 vs 順大	②13:50	
2	4月13日(土)	味フィ西	筑波大 vs 流経大	①11:30	
			早大 vs 慶大	②13:50	
	4月14日(日)	味フィ西	日体大 vs 国士大	①11:30	
			専大 vs 東洋大	②13:50	
	3	4月20日(土)	駒陸	中大 vs 順大	①11:30
				明大 vs 桐蔭大	②13:50
		4月27日(土)	フクアリ	日体大 vs 東洋大	①11:30
				早大 vs 筑波大	②13:50
				国士大 vs 順大	①11:30
				明大 vs 流経大	②13:50
4	4月28日(日)	三ツ沢	筑波大 vs 東洋大	①11:30	
			専大 vs 順大	②13:50	
	5月3日(金・祝)	味フィ西	早大 vs 桐蔭大	①11:30	
			日体大 vs 順大	②13:50	
	5月4日(土・祝)	たつのこ	明大 vs 慶大	①11:30	
			筑波大 vs 桐蔭大	②13:50	
			早大 vs 流経大	①11:30	
			専大 vs 東洋大	②13:50	

節	日付	会場	対戦	時間	
6	5月5日(日・祝)	フクアリ	明大 vs 順大	②13:50	
			国士大 vs 慶大	①11:30	
	5月6日(月)	味フィ西	日体大 vs 桐蔭大	①11:30	
			中大 vs 筑波大	②13:50	
7	5月11日(土)	三ツ沢	早大 vs 東洋大	②13:50	
			たつのこ	専大 vs 流経大	②13:50
	5月12日(日)	味フィ西	国士大 vs 桐蔭大	②13:50	
			中大 vs 流経大	②13:50	
	5月18日(土)	古河	順大 vs 東洋大	①11:30	
			日体大 vs 慶大	②13:50	
	8	5月19日(日)	川口	明大 vs 早大	①11:30
				専大 vs 筑波大	②13:50
5月25日(土)		味フィ西	流経大 vs 順大	①11:30	
			専大 vs 中大	②13:50	
			慶大 vs 桐蔭大	①11:30	
			早大 vs 日体大	②13:50	
9	5月26日(日)	味フィ西	国士大 vs 東洋大	①11:30	
			明大 vs 順大	②13:50	
	5月26日(日)	BMWス	流経大 vs 桐蔭大	①11:30	
			専大 vs 日体大	②13:50	

※①はその会場での第1試合を、②は第2試合を表します。
※試合日程は、都合により変更になる場合があります。

体育会学生のための



リクナビ就職エージェント

あなたの就活を、専任アドバイザーがマンツーマンでサポート。 <http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/>



明治大学 vs 東洋大学

4月6日(土)
12:00K.O.
味フィ西

2年連続で準優勝の明大。専大の前に苦杯をなめてきた。特に昨年は前期リーグの出遅れが響いた格好だが、今年は後半戦に13試合と変則日程だけに、「この日程はうちに優位だと思っている」と神川明彦監督。とはいえ、前半戦でしっかりと勝点を積み重ねていくことが重要だと考えている。

2010シーズンで優勝し、その後、準優勝2回と安定した力を発揮しているが、とにかくほしいのはリーグ戦のタイトル。今年は『奪冠』をチームの合言葉にシーズンを始動させ、例年どおりの堅い守備からいい攻撃をコンセプトにトレーニングを続けてきた。

『奪冠』を成功させるためには、さらなる質の向上と運動量の増加は絶対不可欠だと考え、昨年以上にスピーディーかつ運動量豊富な、そして冷静なサッカーを展開する。昨年の得点源となった選手たちが卒業しただけに、その穴を他の選手でしっかりと埋めることができるかがポイントだ。

昨年、2部を圧倒的な強さで優勝した東洋大。2007年から大宮アルディージャと提携し、チームの強化に力を入れてきた結果が実を結んだ。創部初となる関東大学リーグ1部で、どのような戦いを披露してくれるのか。

目指しているのは攻守においてイニシアチブを握り、他の大学を圧倒できるような質の高いパフォーマンスを、年間を通じて発揮すること。そのために個人個人がこだわりを持ち、サッカーができる喜びをかみしめながら、緊張感のある雰囲気の中で普段のトレーニングに取り組んでいる。

どこが相手でもアグレッシブなサッカーができれば、昨年の日体大と同様に台風の目になりそうな予感。注目の戦いだ。

昨年のリーグでの対戦成績はなし

明大		東洋大	
2. 八塚	8. 和泉	13. 川森	7. 馬渡
4. 松藤	9. 西澤	9. 三田	5. 藤井
	10. 矢田		8. 年森
1. 三浦			1. 浅沼
	6. 水野		6. 石川
3. 山越	11. 野間	10. 桑田	4. 郡司
5. 小川	7. 梅内	11. 黒須	16. 筑井

中央大学 vs 慶應義塾大学

4月7日(日)
11:30K.O.
夢の島

昨シーズンは失点数がリーグ3番目に少なく安定していた中大だが、攻撃面ではなかなかゴールを割ることができなかった。そのため1点差で敗れたり、引き分けに終わるゲームが多かっただけに、この僅差のゲームをいかに勝ちきるかが今年のポイントだろう。また、昨年は前期を2位で折り返しながら、後期はズルズルと後退してしまったのも反省点だ。

もちろん中大の歴史ある堅い守備は徹底させなければいけないが、そこからダイナミックにスピードある攻撃を心がけたい。FW澤田崇(4年)のドリブルに加え、木村陽一郎(4年)の高さで相手ゴール前を脅かしたいところだ。開幕戦で自分たちのサッカーが披露できれば、一気に波に乗る可能性のあるチームだ。

一昨年はリーグ3位、インカレ3位と結果を残した慶大だが、優勝を目指した昨年はリーグ戦9位。まさかの残留争いに巻き込まれる事態となってしまった。

今シーズンは昨年の経験を生かした新たな意識の下に戦っていく。失点数が多かった昨年の結果を受けて、プレシーズンに守備面の強化を最大の課題としてきた。須田芳正監督が標榜するパスサッカーを土台として堅固な守備を築き上げるにより、見ている人たちにいっそ

うの感動を与える全員攻撃、全員守備のサッカーを展開する。

また、今年のチームスローガンを『KYOSO』とした。『競争』と『共創』の二つの意味が込められており、チームメイト全員が常にライバルとして健全な競争の下に、高い目標に向かって努力すること、その結果として慶大サッカーの新たな歴史を共に作り上げることを目指している。その第一歩となる中大戦での守備に注目したい。

昨年の対戦：前期/中大2-1慶大、後期/中大4-2慶大

中大		慶大	
6. 高瀬	10. 澤田	6. 山浦	2. 岩田
3. 大和田			17. 日高
	8. 田辺		8. 松下
1. シュミット	4. 細見	9. 木村	10. 武藤
	16. 渡辺		11. 近藤
			5. 増田
5. 岡崎			13. 小林
2. 古賀	11. 川越	7. 磨見	4. 保田

専修大学 vs 桐蔭横浜大学

4月6日(土)
14:20K.O.
味フィ西

昨年、一昨年の王者・専大。3連覇達成なるかに注目が集まる。最大の課題はディフェンス面だろう。センターバックの栗山直樹(千葉)、鈴木雄也(Honda FC)が抜けた穴をどう埋めるか。栗山は昨年7月に負傷し、後期リーグ不在。それでも勝ち抜いてきた実力はさすがのひと言だが、二人のコンビは絶妙だっただけに内容自体は苦しかった。今年、失点が多くなることは覚悟しなければいけないだろう。

そこで重要になってくるのが攻撃面。チームのアイデンティティーである『攻撃的で美しいサッカー』を進化させることを目指し、今まで以上に『ゴールを奪う』『走る』を追求し、よりエキサイティングな試合ができるように取り組んできた。特に、下級生の伸びが昨年の終盤から著しく、新1年生にも注目が集まる。激しい競争があってこそチームは成長するもの。レギュラー陣でも気が抜けない厳しい争いが、試合でどう表現されるかが楽しみだ。

1998年に活動をスタートさせた桐蔭横浜大。2006年に関東2部へ昇格し、チーム一丸となって一歩ずつ階段を上ってきた。そして、7シーズン目の昨年、2部2位で念願の1部昇格を果たした。

今年のチームスローガンは『tough(強い精神力) & intelligent(豊かな知性)』。自由に発想し、時に失敗もし、体験の中で学んで成長することを常に考えるという意味だ。『インカレ出場』を目標にして、『情熱、責任感、判断力、アイデア、コミュニケーション』を武器に、プレーしても楽しいサッカーを目指す。

昨年のリーグ戦では得点力にやや難があったが、1部では決めきることが大事になってくる。専大相手にどういった戦いができるか!?

昨年のリーグ戦での対戦はなし

専大		桐蔭大	
5. 山崎	11. 前澤	8. 山崎	3. 香西
4. 本名			6. 福島
	8. 下田		7. 平山
1. 福島	7. 長澤	9. 稲葉	10. 坪井
	14. 星野		5. 金子
3. 萩間			1. 島崎
			4. 古澤
2. 北爪	10. 仲川	11. 山根	20. 長谷

早稲田大学 vs 順天堂大学

4月7日(日)
13:50K.O.
夢の島

古賀聡氏が監督に就任して3年目の昨年、リーグ戦で3位、そしてインカレでは優勝と結果を出した。『ボールを奪う、奪って早く攻める』という、サッカーの本質へのアプローチで実を結んだ格好だ。

今まで積み重ねてきた努力が結果として証明されたわけだが、リーグ戦では勝負どころの試合で勝ちきれないことが多く、まだまだ力不足を感じるシーズンだった。

また、攻守の大黒柱が抜けたシーズンを迎えるだけに、チーム内にも危機感がある。

『新チームとなったわれわれは昨年度の王者ではなく、降格の危機にさらされているチーム。慢心、おごりは一切捨て、新たな決意とバイタリティをもって戦いに臨む』という共通意識がある。

「実際、まだまだ昨年のレベルまできていない」(古賀監督)

と、気を引き締めている。

昨年は残留争いに終始した順大。個々に能力の高い選手はいるが、チームとしてなかなか機能しないことが多かった。特に、守備面が不安定。また、試合によって出来、不出来の差が非常に激しかった。チームとして一つになりきれない状況が生まれ、なかなかうまくいかない

状態のままシーズンを終えてしまったという反省から、今年は個に頼るのではなく、全員の力を集結させて臨んでいく。『全員が大きく成長する』をコンセプトに土台となる基礎力の向上を目指し、お互いの人間関係を育むところからスタートした。練習試合等を見ると不完全な部分も多いが、今後に期待が持てるスタートとなっている。

昨年2敗。しかも無得点に終わっている早大を相手にどこまで戦えるか。

昨年の対戦：前期/早大3-0順大、後期/早大2-0順大

早大		順大	
6. 三竿	8. 近藤洋	11. 原田	16. 吉永
3. 田中進	9. 榎本		3. 清水
	5. 池西		8. 天野
1. 松澤		20. 山崎	6. 岡崎
	4. 中田		10. 井村
2. 奥山	11. 片山		4. 谷奥
12. 八角	7. 近藤貴	9. 岡庭	2. 友澤